

# 最後の代官

④

## 忠左衛門日記

岩本忠左衛門の活躍で 明治維新を無事に乗り  
「本領安堵」を得るなど 切った山家藩旗本の谷衛



忠左衛門らがいた陣屋の絵図。十倉中町では今も、石垣などの陣屋の跡が残されている

久は、明治2年（1869）の版籍奉還に伴い新政府から東京へ来るよう  
な生活を送ったかを「諸  
9）の版籍奉還に伴い新記録」として日記に残し  
から一村人として引き続  
政府から東京へ来るよう  
ている。  
き十倉村に住み、6年か

綴られている。  
市資料館は忠左衛門  
という人物像を、「こ

## 版籍奉還で家臣団も解体

### 自らは十倉に残り分校管理人に就く

命じられ、陸 それによると、小沢鉤  
軍に採用され 太郎の一家は明治3年に  
る。翌年には 父の東三が生まれた大和  
衛久の家臣団（奈良県）へ帰り、警察  
も解体され、 官に転身。道家波右衛門  
十倉村にいた は東京で茶店を開き、道  
家臣たちは相 家辰之輔は本家（旧山家  
次いで村を離 藩）へ復籍したあと兵隊  
れた。忠左衛 に編入した。このほかに  
門は、その家 も東京で商売を営んだ者  
臣たちが離村 もいるという。  
後にどのよう 代官だった忠左衛門は

りなど、普通の出来事が  
だったのかもしれない  
い」と描いている。  
忠左衛門の日記など  
古文書を主役にした第  
12回「特別展示」がい  
よいよ30日から、里町  
の同資料館でスタート  
する。開館時間は午前  
9時〜午後5時。入場  
料は100円（中学生  
以下無料）。

（岡田圭司記者）